

当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略に対する意見書

平成27年10月に策定した当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略について策定から一定期間が経過し、4つの基本目標より構成される14の重点推進プロジェクトにおける進捗状況、平成30年度予算計上の状況並びに平成29年度末の各基本目標における数値目標及び各重点プロジェクトにおける重要業績評価指標（KPI）の説明・報告を受けたことを踏まえ、次のとおり本委員会から意見を付しますので、町は戦略目標の達成に向けてより一層の事業推進に努められることを望みます。

1 人口減少について

当別町の人口は、各重点推進プロジェクトの事業効果が表れる平成32年から緩やかに増加となると見込まれておりますが、平成29年10月1日現在1万7千人を大きく下回っている現状からも、危機感をもって人口増加に向けた取り組みを全庁あげて検討する必要があります。

2 総合戦略の進捗状況に対する意見

(1) 基本目標1 産業力の強化

- 人口減少の解決方法の一つとして、企業誘致による雇用の増加の波及効果としての世帯数の増加が見込まれます。企業誘致の促進に向けてはインフラ整備が課題となっていることから、誘導すべき企業ニーズ等を踏まえ、整理・検討することが重要です。
- 交流人口を増加させることも人口減少対策において重要であり、町の基幹産業は農業であることから、道の駅における農産物等といった特産品の販売による集客は非常に重要です。道の駅の各店舗ごとの売上状況や来訪者の用途別利用状況等について分析・検証する必要があります。

- 道の駅が開業してから約1年が経過し、想定を上回る来場者となった一方、冬期間の集客数の低下といった課題もあることから、来場者の平準化や道の駅の経営安定を図るため、来場につながる事業や販売意欲の向上が図られる事業を構築する必要があります。

また、複数の道の駅との連携による相乗効果も期待することができることから、石狩管内の道の駅との連携も重要となります。

併せて、道の駅運営会社のノウハウ向上や販路開拓を進めるために地域商社事業の更なる推進に努める必要があります。

(2) 基本目標2 エネルギー地域分散型都市の形成

- エネルギー地域分散型都市の形成に向けては、企業誘致といった各プロジェクトの進捗状況を考慮し、連携した取組となるよう推進する必要があります。
- 木質バイオマスの利活用については、木材の需要と供給のマッチングについて検討し、循環型システムの構築を図ることが必要です。

(3) 基本目標3 まちに人を呼び込む「定住・交流」の促進

- コミュニティバスについては、西当別道の駅線のこれまでの利用状況を踏まえ、検討を行うとともに、JRとの接続等を勘案し、町民ニーズに沿った運行形態の検討を行う必要があります。

また、コミュニティバスについては、まちに人を呼び込み「定住・交流」の促進という側面もあることから、JRとの接続等を勘案し必要に応じた時間帯の運行など、町民ニーズを意識した運行形態の検討を行う必要があります。

加えて、西当別道の駅線については、実証運行後においては、時間帯別の利用状況調査やアンケート調査等の結果を基に、持続可能な路線となるよう利用料金を含めて検討する必要があります。

- 町の観光については、インバウンド観光客も視野に入れて重点的な優先度の高い観光地の絞り込み、道の駅を基点とした観光地の周遊ルートの構築とPR方法等の整理・検討をする必要があります。

- 当別町版C C R C構想や駅周辺再開発の実現に向けた立地適正化計画の策定にあたっては、将来の人口見通しを踏まえながら都市全体を見渡して、生活サービス機能や居住機能のあるべき姿を検討する必要があります。

(4) 基本目標4 未来を担う子どもの育成と町民が幸せに暮らせる社会の形成

- 町内に居住し、かつ、町外へ通勤している町民が多いことから、町内に居住したいと思うメリットや理由についての分析と検証を行い、当別町の強みを打ち出していく必要があります。

- 子育て環境の充実は大変重要であるため、現在実施している各種施策の更なる充実・拡充に加え、高校への通学に係る通学費助成といった子どもの教育に係る経済的な負担を軽減するなど当別町の地域特性を補う子育て支援に向けた取り組みを推進する必要があります。

(5) その他意見及び総合戦略全体を通じて

- 当別町と北海道ドローン協会が協定を締結し、また、町内にドローンの練習場が開設されたことから、農業や観光分野等の様々な分野での連携を期待しています。

3 重要業績評価指標（K P I）について

各重点推進プロジェクトにおける平成29年度までのK P Iについて、平成30年度、また、戦略目標である平成31年度目標達成に向け、K P Iの数値等が目標達成に向かっているか改めて検証を行い、目標達成のシナリオを組み立てる必要があります。

以上